

Dr.ひろみの

ハッピー子育て

か る た

ひろば

みなさん、こんにちは。このハッピー子育てかるたシリーズも2年目、子育てひろばとしては8年目になります。小学1年生だった子どもは中学2年生ですね。みなさんのお子様も大きく成長し、様々なことがあったと思います。誰も常に順風満帆とはいきません。谷があるからこそ、山から見る景色は素晴らしく、立ち止まるからこそ、歩き出せる幸せをかみしめるのです。この瞬間が尊いですね。



☆読み手☆
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)
香川大学医学部 小児科専門医

22

ときには 親の失敗談

一緒に笑って 楽しもう

「自分も失敗して大丈夫」

子どもの学びは 失敗から

21

子どもに

話を聞いてばかり

質問ばかりで

うっとうしい



今月のかるた解説



進級、進学で子どもの様子が気になり、子どもに会うとすぐに「今日はどうだった?」「何したの?」「友達できた?」など、矢継ぎ早に質問攻めしてしまいがちですね。楽しいことなかった、嫌なことがあって悲しい、周りに気を使ってクタクタ。勉強難しいし、友達できない。。期待されるようないい話ができなくて、家でもしんどいかもかもしれません。「別に」「ふつう」「びみょう」「なんで聞くん?」、または聞こえないふり。

会話は親子で必要ですが、子どもばかりが話題提供しなくてもいいと思うのです。子どもだって大好きなお父さん、お母さんの話が聞きたいです。例えば子どもの時、うまく友達ができなかったことや誤解されてしまったこと。また笑える失敗談もいいですね。溝に落ちてランドセルごと水につかってしまったとか、給食で食べられなくて机の中に隠していたら、腐ってカビが生えていたとか(笑)。自分でなくても、昔の同級生の話でもいいと思います。そんな失敗談に子どもは心底ほっとするものです。なんだ、失敗してもいいんだ、みんなやらかしてるんだと。そんな失敗談から励まされたり、自分は気を付けようと学んだり。笑いほど人を勇気づけるものはないですね。